

## H30年度自己評価・年間反省

今年度は4月から新しい保育所保育指針が施行され、

- ・知識及び技能の基礎
- ・思考力、判断力、表現力等の基礎
- ・学びに向かう力、人間性

という、幼児教育で育みたい3つの資質・能力を、遊びを通して育てていくことを意識した保育を行ってきました。

園全体で取り組んでいる体育指導は3年目となり、子どもたちにも保育士にもしっかりと定着しています。遊びの中で足の指や手の指をしっかりと使い、自分の身体をコントロールし、「どうすればいいのかな?」「できた!」の経験をたくさん積んでいます。運動ができるようになるだけではなく、自分で考えてできたという達成感や満足感を味わうことが、次への意欲に結びついていると思います。発表会や参観日に、普段やっている運動遊びを保護者の方々に観ていただくことも子どもたちの励みになり、自信に満ちた顔に成長を感じる一日となりました。

昨年からはばら組が、ばら1歳組、ばら2歳組の2クラスに分かれ、一人一人の育ちを大切に保育を心がけてきました。今年度は、昨年合同で参加していた行事(運動会、発表会)もクラス別の演目で参加しました。それぞれのクラスの生活リズムや活動がしっかりと確立し、子どもたちも落ち着いて生活しています。

9月に起こった胆振東部地震では停電が翌日の夕方まで続き、食材の調達ができずに一週間、ご家庭からお弁当持参で登園してもらう事態になりました。今まで大きな災害がなかったことで、物心ともに備えが足りなかったことを痛感し、その後、環境の見直しや備蓄品の充実、避難訓練のやり方の見直しを行いました。

一年間、大きな事故や苦情はありませんでしたが、小さなヒヤリハットを見逃さず、その都度職員間で話し合い、改善、注意していきたいと思います。こども園と保護者、更に地域の方々とも活発に意見を出し合い、ともに子どもたちの育ちを促していけるようにしていきたいと思います。